

# ベビュメ ベビュ

題字  
原嶋 やよいさん (学部2年生)

## “天使のみつけかた”

おーなり由子 著、新潮文庫

平野 詩歩 (学部2年生)  
あなたは天使に出会ったことがありますか？

たとえば、思いがけない場所で、とても会いたかった人にばったり出会った時。とても悲しくてたまらない時に、偶然透명한風景に出会う瞬間。たいした事が起きたわけでもないのに、おかしくて笑いが止まらない時。それは天使のしわざです。目に見えなくても、いろんな天使がそこらじゅうにいます。この本では、そんな天使たちと出会い仲良くなるヒントが、著者によ

り描き下ろされた優しいタッチの絵とともに紹介されています。ふとした時に、目次から気になる天使のページを探して開いてみれば、それまで見えていなかった何かが見えてくるかもしれません。是非一度手に取ってみてください。そしてあなたの一番大切な人に天使のみつけかたを教えてあげてみてはいかがでしょう？



## “800”

川島 誠 著、角川文庫

林田 啓誉 (学部2年生)

「The青春！」この本にはこの言葉がしつくりくる。800mという過酷な種目を通して繰り広げられる、等身大の高校生の部活、人生、そして恋。がむしゃらで下半身で行動する中沢と、頭脳明晰で頭でっかちな中沢という対照的な二人が、交互に一人称で物語を進めていく。この二人が織りなすエネルギーで爽快な展開は、いわゆる「スポ根物」とは一味違う。キラキラとした魅力的な熱さをもった二人が、ここまでも眩しく見えるなんて思

いもしなかった。いったん読み出したら、トラックを駆け抜けるように一気に読み終えてしまうほどスピーディーな展開に、読み終えた時の爽快感は忘れられない。陸上をしていない人や、スポーツに興味がない人にも、そしてあの頃の情熱を思い出したい人に、是非読んでもらいたい作品。



## “ミレニアム1 ドラゴン・タトゥーの女 上下巻”

ステイグ・ラーソン 著、  
ヘレンハルメ美穂・岩澤雅利 訳  
早川書房

山本 真帆 (学生支援グループ 主任)

雑誌『ミレニアム』の発行責任者ミカエルは、悪徳実業家を告発するも逆に名誉毀損の有罪判決を受け、失意の日々。そこに大富豪ヘンリックから36年前の少女失踪事件の調査を依頼され、天才的ハッキング能力を持つリズベットと共にスウェーデンの孤島で調査を始める…。

実際にジャーナリストの作者ラーソンの作家デビュー作にして遺作となっ

たミレニアム3部作の第1部。長い名前と登場人物の多さに慣れると、謎解きの面白さに引き込まれます。本作は続編に比べて一番軽めで読み易いですが、北欧の社会問題や政治情勢、時代背景について丁寧に描かれており物語に奥行きを感じます。国家・社会の暗部が関わってくる続編はよりスリリングな展開なので、併せて読むことをおすすめします。



### 「星を継ぐ者」

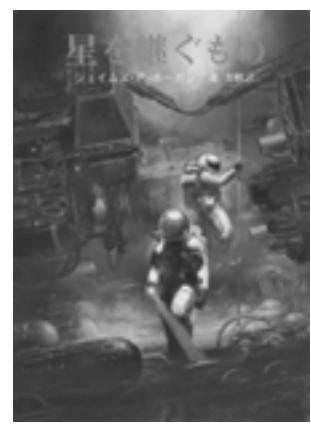
ジェームズ・P・ホーガン 著、池央耿 訳、創元SF文庫

田口 健 (総合物理プログラム、准教授)

2020年代、月面で宇宙服を着た1人の男の死体が発見される。調べて見るとなんと5万年も前に死亡していたことが判明。一体それは誰なのか・・・。原子物理学者、生物学者、言語学者など様々な研究者がその謎を科学的に検証、解明していく。

一応SF小説ですが研究所内での科学者たちのディスカッションによる謎解きシーンが中心で、ミステリー小説と評されることも多い。どんだん謎が深まり、その科学的な謎解きが人類の

起源へと結びつくところが実にエキサイティング。本書だけでも十分楽しめますが、続編2冊(ガニメデの優しい巨人、巨人たちの星)と合わせて読むことをお勧めします。30年以上前に発表された小説ですが、現代の様々な問題、人類の未来を予言している様な内容です。



### 「深夜特急」

沢木耕太郎 著、新潮文庫

長谷川 博 (スポーツ科学プログラム、准教授)

私は大学生の頃、スポーツノンフィクション作家であった山際淳二氏や沢木耕太郎氏の作品をよく読んでいました。ここでは、沢木耕太郎氏の「深夜特急」を紹介します。この作品は著者独自の淡々とした文章で綴られており、当時海外など縁のなかつた私にも異国の土地の空気や臭いまでも感じさせてくれるなど印象的でした。自身の体験に基づいた旅行小説であるため、著者の旅行スタイルは当時多くの若者

の心を惹きつけました。私は部活動を行っていたため長旅はできませんでしたが、本を読んだから海外や旅に対する興味が強くなったのは事実です。今は若者の「海外離れ」が叫ばれています。残念ですが歳をとるにつれ自由度が制限されてしまいます。若い時期に自分探しの旅に出てみてはどうでしょうか。



【担当】21生 久住 忠彦

### 「幼年期の終わり」

アーサー・C・クラーク 著、池田真紀子 訳、光文社

高橋 浩樹 (数理情報科学プログラム、准教授)

高校生のときに本書を読み終えた後、しばらくの間放心状態になりました。読書をする理由には色々あると思いますが、知識を広げたり、楽しめたかったり、泣きたかったり。しかし、本書を読んで得たものは、そういったものにはありませんでした。根本的な疑問を植え付けてくれたのです。我々はどうしてここにいるのだろうか？

宇宙開発の新局面を迎えようとする近未来、突如各国の首都上空に巨大宇

宙船が出現する。圧倒的に優れた科学力をもつ異星人たちは、いかなる目的で地球にやってきたのか？人類から自分たちの姿を隠し続けるのは、いったいなぜなのか？



### 「心の輪郭」

川合伸幸 著、北大路書房

坂田 省吾 (行動科学プログラム、教授)

ちょっとマイナーな本かもしれませんが、心が考えるにはよい本です。ある意味、研究者のつぶやきかもしれません。副題にあるように、動物の行動から心をあぶり出そうとする考え方と試みです。著者が実験に用いた動物はザリガニ、キンギョ、カメ、ラット、イルカ、ウマ、チンパンジー、ヒトと多彩ですが、知性というものについて、気軽に考えさせてくれます。著者は2009年に日本学術振興会賞を受

賞した新進気鋭の心理学者です。2010年にはアメリカ心理学会(通称APA)から比較心理学賞も受賞しています。ここからは何かを考えながら、章の最後のコラム欄には研究者の悩みも正直に記載しており、どの分野の人にとっても将来研究者を考えている人にはお薦めです。

